学校番号	1009

令和３年度　家庭科

教科	家庭	科目	服飾手芸	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇手作りの良さを知り、手縫いによる手芸作品を仕上げましょう。
　様々な手芸作品の制作を通して、手芸技術の技法や知識を習得します。
　自由な発想で作品をデザインし、オリジナルの手作り作品を完成させます。

２ 学習の到達目標

　手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技術の技法などに関する知識と技術を習得し、手芸品を制作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	様々な手芸作品について関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	様々な手芸作品について生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	様々な手芸に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	様々な手芸に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 製作計画、 実習記録表 レポート、発表 自己評価　等	学習状況の観察 製作計画、実習記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 レポート、自己評価・相互評価等	学習状況の観察 製作計画、 実習記録表 レポート、
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

４ 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
４・５・６・７月	基本的な手芸作品	○毎時間、自分の行った内容・次回の目標等を記録し、レポートとして提出する。 （年間通じて行う） ＊帽子型ピンクッション 並み縫い、玉止め 玉結び等の練習 ＊クロスステッチ刺繍のあるコースター デザインを考え、図案化。 クロスステッチの刺し方 ミシン縫いの練習 ＊ハワイアキルトのクッション ・図案の意味を考え決める。 ・土台にモチーフをアップリケする。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:様々な手芸について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:様々な手芸の手法を見つめて課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:様々な手芸の特性を支える技術を身に付けている。 d:様々な手芸について理解し、家族・地域・社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身に付けている。	授業観察 レポート 作品点 自己評価 相互評価
８・９・１０・１１・１２月	ハワイアンキルト	＊ハワイアキルトのクッション ・落しキルト ・アップリケへのトップキルト ・エコーキルト	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:ハワイアンキルトについて関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b 様々なキルトの手法を見つめて課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:キルティングの特性を支える技術を身に付けている。 d:手芸作品について理解し、必要な知識を身に付けている。	授業観察 製作計画 実習ﾚﾎﾟｰﾄ 作品点
１・２・３月		・裏布のファスナー付け ・ミシンで縫い、クッションに仕上げる ・各自作品の発表 （図案や製作工程等について） ＊フエルトを用いたマスコット （自由作品）	○ ○	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:様々な作品に関心を持ち、意欲的に作品作りに取り組もうとしている。 b:発表で工夫をしたり、自由作品で個性を表現している。 c:ミシンや基礎縫いの技術を身に付けている。 d: 手芸作品について理解し、必要な知識を身に付けている。	授業観察 実習ﾚﾎﾟｰﾄ 作品点 自己評価 相互評価

※ 表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現　c:技能　d:知識・理解

※ ＊は、ワークショップ、実習・実験など実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習活動を示している。

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。